

当教室で行っている研究のお知らせ

消化管外科学分野では、以下の研究を行っております。皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

研究課題名：鼠径部腹膜前領域の密性結合組織に関する検討

東京科学大学医学系倫理委員会承認番号：I2025-181

研究期間：研究実施許可日から 2028 年 3 月 31 日まで

研究目的：

鼠径ヘルニア治療においては腹腔鏡手術が主流になってきています。その手技の中で完全腹膜外修復法（TEP 法）では腹直筋後鞘の腹側で入り、弓状線から腹膜前領域に入るとされます。一方、経腹的腹膜前修復法（TAPP 法）では腹腔内より腹膜を切開して腹膜前腔に到達する修復法です。どちらも最終的には同じ剥離層で操作を行っていると考えられますが、前者ではより浅い層での剥離となっている可能性があります。

また、腹膜前腔の剥離に際しては精管から下腹壁血管付近にかけて腹膜前筋膜深葉が連続し衝立状となっています。この外側では内鼠径輪から離れると深葉および浅葉は癒合し、この内側では膀胱前腔（Retzius 腔）を認め、鼠径ヘルニア手術では膀胱下腹筋膜に沿って剥離操作を行う領域とされています。

以上のように、腹腔鏡での鼠径部ヘルニア手術ではメルクマールとすべき解剖学的構造が複数存在し、剥離すべき領域が定められていますが、それらは肉眼的な構造で、詳細な組織学的構造は未だに解明されておらず、解剖組織学的基盤の構築が課題となっています。

本研究の目的は、組織学的方法を用いて鼠径部ヘルニア手術に関連する腹膜前領域の密性結合組織構造の詳細を明らかにすることです。これらの解剖組織学的研究は、より精緻な手術法の確立につながり、鼠径部ヘルニア治療の発展に寄与すると考えています。

研究の対象：

本研究で用いる解剖体は、すべて生前に「東京科学大学献体の会」に入会された方で、2023 年から 2028 年までに献体された（される）ご遺体 10 体の予定です。その尊いご遺志に深く感謝するとともに、医学、歯学の教育ならびに研究に用いるという献体法（医学及び歯学の教育のために献体に関する法律）ならびに死体解剖保存法を遵守して行って参ります。同時に、「人を対象とする医学系研究に関する倫

理指針」および日本解剖学会が定めた「解剖体を用いた研究についての考え方と実施に関するガイドライン」に従って行います。

研究の内容：

本学臨床解剖学講座にて保存されている解剖体 10 体を用いて、鼠径部腹膜前領域の密性結合組織の解剖組織学的解析を行います。染色法としては HE 染色，EVG 染色を行います。本研究が提供する解剖組織学的知見が、鼠径部ヘルニア治療法の発展に貢献できると考えています。

この研究により一定の成果がえられた場合には、その結果を学会や論文で発表しますが、写真閲覧時に匿名化を行い、解剖体の個人を特定できる情報は使用いたしません。登録解剖体の同定や照会は、登録時に発行される登録番号を用いて行います。登録にあたっては、識別番号を設定します。参照した画像等は、匿名化の後、臨床解剖学医局にて 10 年間厳重に保管し、研究終了後に適切に扱わせていただきます。

本研究は大学の運営費を用いて行われます。また研究を実施するにあたり特定企業との利害関係はありません。本研究の実施にあたっては、本学利益相反マネジメント委員会に対して研究者の利益相反状況に関する申告を行い、同委員会による確認を受けています。

なお、本研究に関してお問い合わせのある場合、下記宛先までご連絡ください。また、研究の途中であっても、解剖体の使用あるいは得られたデータの使用をお断りになる場合には直ちに本研究の対象から除外します。その場合にも故人および関係者の皆様の不利益となることは一切ありませんので、ご遠慮なくお申し出ください。

研究責任者：東京科学大学 光学医療診療部 川田研郎

〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45

電話：03-5803- 5254（対応可能時間帯 平日 9:00～17:00）

苦情・相談窓口：

東京科学大学研究推進部 研究基盤推進課 生命倫理グループ

03-5803-4547（対応可能時間帯：平日 9:00～17:00）